

令和5年度 全国学力・学習状況調査 ～我孫子市の子どもたちの結果より～

教科に関する調査結果より

小学校

国語、算数、いずれも全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」 ※いずれも上回っている

中学校

国語、英語は全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」で、数学は「上回っている」

*「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

学力

- 小学校国語では、「文章の種類とその特徴」についてよく理解できている。一方、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」に課題が見られた。
- 小学校算数では、どの問題も全国平均と同程度か、上回っている。「正三角形の意味や性質を理解しているかみる問題」「高さが等しい三角形の底辺と面積の大小を判断する問題」では、全国と同様に課題が見られた。図形を描いたり、折ったり、切ったり、測ったりする活動を多く取り入れ、図形に関する感覚を養いたい。
- 中学校国語では、どの領域も全国平均と比べて上回っている。「書くこと」の正答率も伸びがみられ、無回答率も下がっているが、全国と同様に依然として課題もある。
- 中学校数学は、どの領域もよくできている。特に「データの活用」や「図形」の問題では、全国平均よりも大きく上回る結果となった。ただ、「空間における平面が同一線上にない3点で決定されること」の理解については、全国と同様に課題が見られた。観察や操作などの活動を通して実感を伴いながら理解できるようにすることが大切である。
- 中学校英語では、「聞くこと」「書くこと」は全国平均よりも上回っているが、「読むこと」がやや下回っている。全国と同様に、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題」に課題が見られた。目的に応じた言語活動や、「読む」と「書く」をつなげていく活動を大切にしたい。

児童生徒に対する質問紙調査結果より

- 小中一貫教育の目指す「コミュニケーション力」「チャレンジ力」「豊かな心」について
小学生、中学生ともに全国平均と同程度である。中学校は全てにおいて全国平均を上回っているものの、小学校は全てにおいてやや下回っている。問題解決型学習や体験学習をより一層充実させ、友達と一緒に共通の問題や課題を設定し、その解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育てていきたい。
- 生活習慣：「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に寝ている」「毎日同じくらいの時間に起きている」といった基本的な生活習慣が身についている小中学生の割合は、全国平均よりもやや下回っている。
- 学習習慣：家で計画を立てて勉強をしている小中学生の割合は、ともに全国平均よりやや下回っている。しかし、学校外での学習時間は全国平均より長い。学校と家庭が連携を深め、家庭学習をより効果的なものになるようにしたい。
- 自己有用感：「将来の夢や目標を持っている」と回答した小中学生の割合は全国平均をやや下回るが、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童生徒は全国平均と同程度である。キャリア教育の充実を図り、自らの将来について夢や憧れを持てるようにしたい。
- 学習に対する興味・関心や授業の理解度
小学生中学生共に、学習に対する興味や理解度は、国語と英語は全国平均と同程度であるが、算数・数学は下回っている。どの教科も「わかる」「楽しい」と思えるような授業改善を目指していきたい。

自尊意識・生活習慣等